



[海の状況 (8/16~9/15)]

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて概ね神子平年よりはなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図1)
 ※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 8月中は概ね平年並み (±0.5℃) で推移したが、9月以降は平年並み (±0.5℃) からはなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図2)

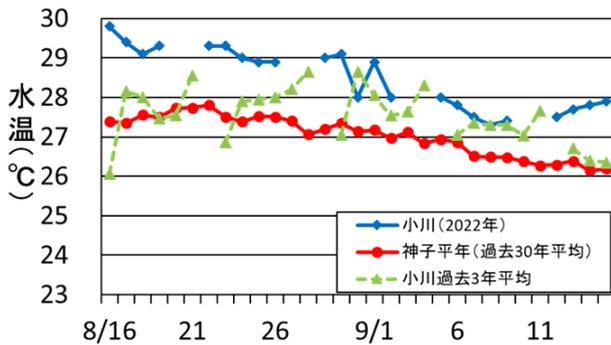


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

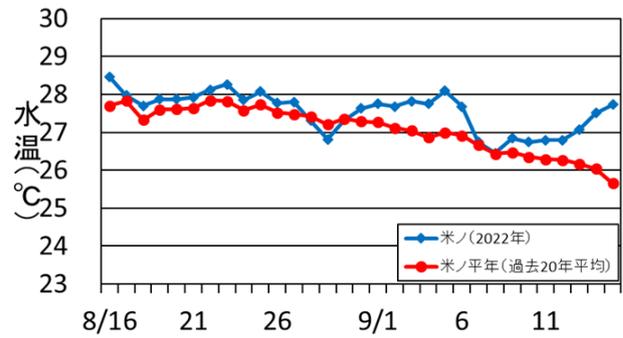


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2019年~2021年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

[若狭湾および周辺海域の海況：8月]

8月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0 m)では、若狭湾沿岸で28℃~の範囲が大きくなっていた。水深50 mでは、若狭湾沿岸で26℃~28℃の範囲が大きくなっていた。水深100 mでは、若狭湾沖で6℃~10℃の冷水塊が確認された。水深200 mでは、若狭湾沖で4℃以下の範囲が前年より大きくなっていた。(図3)

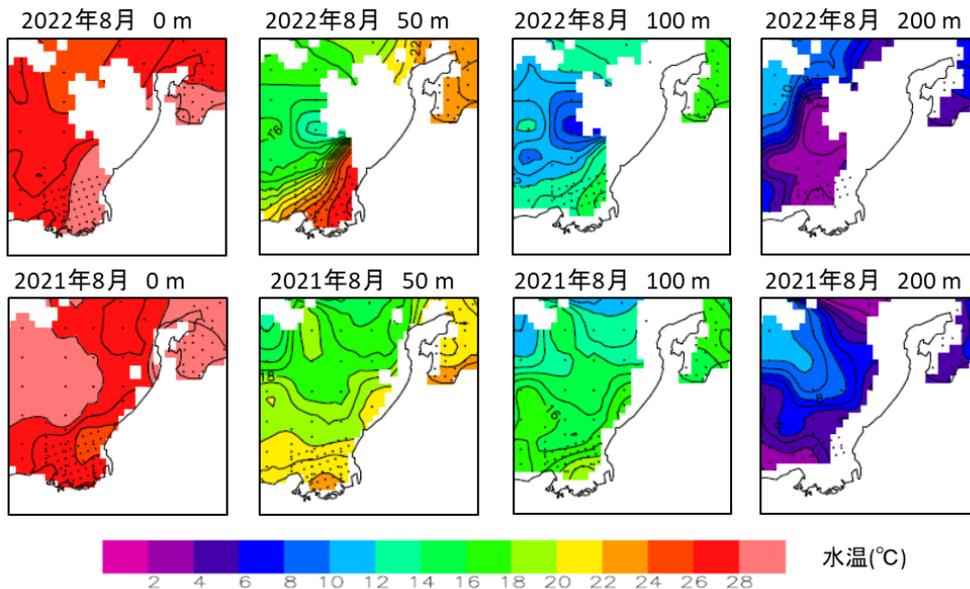


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

日本海における大型クラゲ情報

9月15日に山形県の底曳網で1個体(傘径80cm)、9月16日に秋田県の定置網で2個体(傘径50cm)入網し、東北地方でも確認されています。また、9月10日に島根県の定置網で10個体(傘径不明)の入網が確認されていますので、引き続き、福井県内でのまとまった入網にご注意ください。

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

〔県内の漁模様：8月〕

2022年8月の県内の総漁獲量は285tで、前年同月を168t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は155tで、前年同月を181t下回った。小アジ銘柄は上回ったが、サワラ、ツバス・アオコ銘柄、サワラは大きく下回った。

〔底びき網〕

漁獲量(アカエビ主体)は10tで、前年同月並みであった。

〔釣り・その他〕

漁獲量は121tで、前年同月を13t上回った。スルメイカは大きく上回ったが、アマダイ、タコ類は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(8月)

定置網	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
イワシ類	768	3,073	9,543	-2,305	-8,775
アジ銘柄 計	52,139	17,254	29,556	34,885	22,583
(アジ)	6,037	4,012	7,438	2,025	-1,400
(小アジ)	44,812	11,684	20,079	33,128	24,733
(アオアジ)	1,289	1,558	2,039	-269	-750
サバ類	7,275	14,205	16,289	-6,930	-9,014
マグロ類	1,750	875	759	875	992
カジキ類	2,487	1,458	4,088	1,029	-1,601
ブリ銘柄 計	20,185	51,829	114,754	-31,645	-94,569
(ブリ)	14	65	305	-51	-291
(ワラサ)	42	907	5,179	-865	-5,137
(ハマチ)	899	4,988	33,413	-4,089	-32,514
(ツバス)	10,517	24,210	51,072	-13,693	-40,555
(アオコ)	8,712	21,659	24,785	-12,947	-16,073
シイラ	33,864	48,479	67,968	-14,615	-34,104
サワラ	14,938	164,817	137,042	-149,879	-122,105
タイ類	2,100	4,201	6,277	-2,101	-4,177
スズキ	2,206	2,515	4,533	-309	-2,327
カマス	1,765	1,094	3,611	672	-1,846
アオリイカ	1,916	206	362	1,711	1,554
ケンサキイカ	2,985	15,283	9,542	-12,297	-6,557
その他	10,136	10,633	24,943	-497	-14,807
合 計	154,515	335,922	429,268	-181,407	-274,753

底びき網	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
アカエビ	8,968	7,963	16,473	1,005	-7,505
その他	669	1,158	1,682	-489	-1,013
合 計	9,637	9,121	18,155	516	-8,518

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
キダイ	13,442	10,839	15,590	2,604	-2,148
アマダイ	8,036	11,456	20,824	-3,420	-12,788
スルメイカ	37,396	13,380	13,498	24,016	23,898
ケンサキイカ	247	2,179	3,759	-1,932	-3,513
タコ類	5,889	11,371	12,609	-5,482	-6,720
アワビ	2,218	2,242	2,547	-24	-329
サザエ	13,853	9,420	15,003	4,434	-1,150
バイガイ	27,311	30,579	31,536	-3,268	-4,225
その他	12,375	16,228	44,087	-3,853	-31,712
合 計	120,768	107,694	159,454	13,074	-38,686

全漁法	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
合 計	284,920	452,737	606,877	-167,817	-321,957

※1 平年の値は2012-2021年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄です。

※3 アワビ、サザエ、バイガイの平年値は2014-2021年の8年平均です。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：8月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：8月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：8月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：8月中旬～9月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サバ3.6t、フクラギ・コゾクラ1.7t、シイラ1.6t、ウルメイワシ1.2t、マアジ1.1t

京都府…定置網…マアジ1.2t、サワラ類1.1t、ツバス1.1t、サバ類0.8t、アオコ0.6t、シイラ0.5t

兵庫県…定置網…トビウオ146kg、マアジ111kg、シロイカ33kg、ツバス14kg、スズキ14kg、カマス10kg

鳥取県…まき網…ウルメイワシ14.0t、ブリ類8.8t、マイワシ4.9t、マサバ3.4t、マアジ0.9t

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

養殖試験におけるイワガキの成長

【イワガキについて】

水産試験場では令和元年度から種苗生産・養殖試験を行っています。イワガキは海中の植物プランクトンを餌とするため、人の手で餌を与えない無給餌養殖が特徴であり、作業量が少ない利点がある一方、成長速度は環境条件によって大きく左右されます。試験開始から3年が経過し、一般的な養殖出荷年数となったため、養殖海域と成長に関する試験結果をご紹介します。

【海域ごとの成長】

○殻高

令和元年度に生産し、ホタテ殻に付着させた状態の種苗（写真1）を令和2年4月から嶺南地域の9海域に垂下し、約3カ月毎に殻高（写真2内参照）を測定した結果を図1に示します。

殻高は、いずれの海域でも100mmを超える大きさとなりました。しかし、養殖海域によっては約1年間の成長差がありました。



写真1 ホタテに付着した種苗

○重さ

令和4年6~7月時点での重量の結果を図2に示します。

殻付き重量が200gを超える海域が多く、身入りは14~19%でした。身入りの高い海域のイワガキと身入りの低い海域のイワガキの見た目を比べると、写真2のような差がありました。

敦賀湾、小浜湾、内浦湾内を内海（■）、それ以外を外海（▲）として比較すると、内海の方が外海よりも殻高や重量が高い傾向がみられます。一般的に、イワガキの生育に適した条件として「植物プランクトンが豊富である」、「波浪の影響が小さい」という点が知られており、外海に比べ内海の方が早期出荷に適した海域と言えます。

これらの結果から、イワガキが商品サイズを目安となる殻付き重量200g、身入り15%まで成長し、福井県内でも養殖が十分に可能であると見込まれます。

今後、水産試験場では早期採卵種苗や3倍体種苗など、高成長の種苗を生み出すことで、養殖年数を短縮させることができるか検証していく予定です。

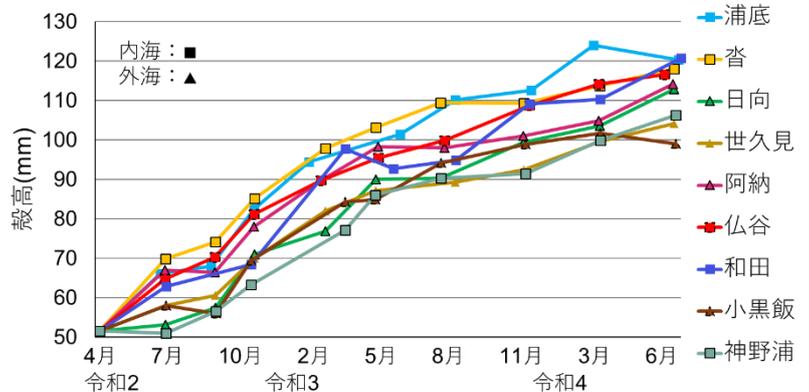


図1 海域ごとのイワガキの平均殻高

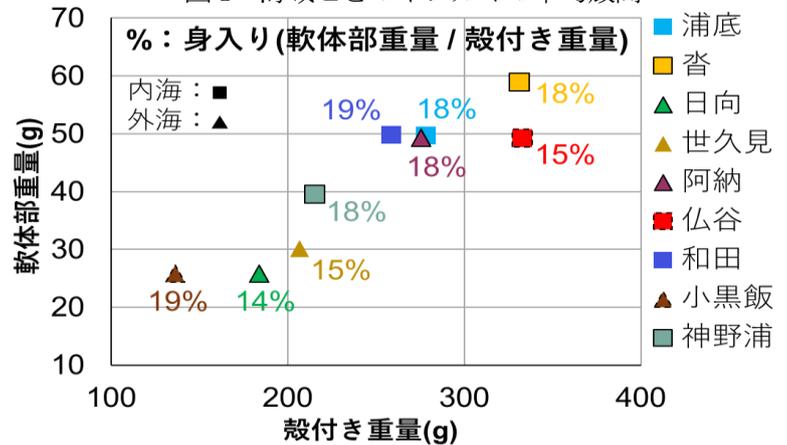


図2 海域ごとのイワガキの重量



写真2 約3年養殖したイワガキの軟体部

(栽培漁業センター 技術開発グループ 原)